

第7回奈良県国際芸術家村構想等検討委員会概要

日 時：平成29年11月8日（水） 15：00～16：40

場 所：東京都千代田区平河町2-6-4

海運クラブ3階 304会議室

参集者：（委 員）佐藤委員長、絹谷副委員長、浮舟委員、大沼委員、
小林委員、松浦委員

（ 県 ） 荒井知事、一松副知事、村田地域振興部長

（天理市）並河市長

概 要：当委員会において、奈良県国際芸術家村の建物配置、各施設の平面計画（基本設計）等全ての議題を了承。

各委員の主なコメント等は以下のとおり。

○各委員の主なコメントの概要

- ・全体を統括して見ることができる人が重要。
- ・なるべく早く質の高い人を見つけ、全体を見たソフト作りを行う必要がある。
- ・「国際」に相応しいソフトづくりも必要。
- ・他とは違う、ここならではの特徴あるものにするべき。
- ・コンセプト、理念、ストーリーを明確にして、運営の展開につなげるべき。
- ・ソフトはこの施設での収益性の担保だけが目的ではない。収益を追求しすぎると最初の理念とかけ離れたものになる。
- ・県全域の歴史的資産、文化施設ともうまく連携すれば、県内各地が有機的につながるのではないか。
- ・奈良県全域的に様々な歴史文化資源があるが、まずは当施設に来て全貌を知って各地を巡れるようにすればよいのではないか。
- ・奈良は日本文化の原点であり、（文化学園では）古美術研修などで全員が奈良を訪問している。当施設の開村後は必ず訪問する。また、ソフト面でも協

カしたい。

- ・内容を充実させて、知的な創造力をかきたてる遊びが出来るようにしてもらいたい。
- ・交流や活動などのソフトは、新と旧が交わる拠点や、点在している様々なものの拠点など、拠点性の機能を意識すればよいのではないか。

○その他

- ・次回の検討委員会は来年2月に開催し、県の取り組み状況などを説明予定。

以 上